

「北極基礎市民講座」お申込み方法

- 参加費用：無料
- 定員：先着100名様
- 申込方法：ホームページ、電話にて(下記をご参照ください)
第1回から第6回の中から一部あるいは全てを選択してお申込みできます。
※お申込みいただいた情報は本催しに限り利用させていただきます。
- 申込締切：満席になり次第、締め切りとさせていただきます。その際には、ご了承ください。

北極基礎市民講座 参加ご希望の場合、以下の方法でお申込みください。

(公財)日本極地研究振興会からのお申込みの場合

ホームページから
お申込みの場合

(公財)日本極地研究振興会のホームページ <http://kyokuchi.or.jp/>
にアクセスしていただき、フォームに必要事項をご記入ください。

南極・北極クルーズ&旅行のスペシャリスト

(株)クルーズライフからのお申込みの場合

ホームページから
お申込みの場合

(株)クルーズライフのホームページ <http://www.cruiselife.co.jp/>
にアクセスしていただき、フォームに必要事項をご記入ください。


お電話で
お申込みの場合

電話番号：03-6228-3981
「ご希望の日程」と「ご参加者名と人数」をご連絡ください。


北極域研究共同推進拠点(J-ARC Net)からのお申込みの場合

ホームページから
お申込みの場合

北極域研究共同推進拠点のホームページ
<http://j-arcnet.arc.hokudai.ac.jp/> にアクセスしていただき、
つづけて「ニュース」、「北極基礎市民講座開講のお知らせ」から(株)クルーズ
ライフのお申込みサイトに入り、フォームに必要事項をご記入ください。

主催  北極域研究共同推進拠点 (J-ARC Net)

北海道大学 北極域研究センター内 〒001-0021 北海道札幌市北区北21条西11丁目 次世代物質生命科学研究センター棟2階
TEL . 011-706-9074 FAX . 011-706-9623 URL: <http://j-arcnet.arc.hokudai.ac.jp/>

共催  公益財団法人
日本極地研究振興会

〒190-0023 東京都立川市柴崎町2-5-2 三多摩第一ビル503
TEL . 042-512-5357 FAX . 042-512-5358 URL: <http://kyokuchi.or.jp/>

後援  南極・北極クルーズ&旅行のスペシャリスト
クルーズライフ

〒104-0032 東京都中央区八丁堀4-10-8 第3SSビル303
TEL . 03-6228-3981(代) FAX . 03-6228-3982 URL : www.cruiselife.co.jp/

2019~2020年

北極基礎市民講座

北極の不思議 もっと知ろうその魅力



世界最大のフィヨルドシステム スコアスピー・スンドのエラ・オーヤ(グリーンランド)

原生的な自然が残る北極域は、極限状態で生息する動植物の生態や氷河・氷床などの壮大な景観を有しています。近年、北極域は地球温暖化の影響をもっとも顕著に受ける地域の一つと言われ、急激な海氷の減少や環境変化が観察されています。このような現象は北極域の気候や生態系に影響を及ぼすだけでなく、水や大気の流れを通じて地球規模の異変を起こす可能性があります。

一方、このような環境変化は北極海における船舶の運航機会の増加や石油や天然ガス等の開発を促進させ、経済活動が活発となっています。同時にこれらは人間社会への影響や環境汚染、国家間の新たな摩擦の原因

となる可能性をはらんでおり、持続可能な活動が求められます。またこのような地球規模の気候変動や社会・経済活動の変化によって生じる課題は北極圏国だけでは解決できないため、日本を含む周辺国の協力にも大きな期待が寄せられています。

本市民講座は、大きく変動する北極に関する最新の情報を自然科学だけではなく人文社会科学を含む幅広い視点で第一線の専門家が分かりやすく解説します。現在と将来に向けた北極のより正しい理解とその魅力を知っていただくことにより、新たな感動を呼び起こしてくれることと思います。

主催：北極域研究共同推進拠点(J-ARC Net)

国立大学法人 北海道大学 北極域研究センター(中核施設)

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所 国際北極環境研究センター(連携施設)

国立研究開発法人 海洋研究開発機構 地球環境部門 北極環境変動総合研究センター(連携施設)

共催：公益財団法人 日本極地研究振興会

後援：(株)クルーズライフ、(株)日本橋トラベラーズクラブ、(株)読売旅行、(株)商船三井

北極基礎市民講座のご案内

- 開催日：下記の日程で開催
- 参加費用：無料
- 受付開始時刻：第1～3回 14:30より / 第4～6回 13:30より
- 講演時間：第1～3回 15:00～17:10 / 第4～6回 14:00～16:10
- 会場：(株)日本印刷会館 東京都中央区新富1-16-8 ☎03-3551-5011

テーマ	開催日	講演タイトル	講師
第1回	2019年 6月21日(金)	今、北極では何が起きているのだろうか？ ～探検から観測を通じて～	山内 恭 (国立極地研究所特任教授)
		凍土の融ける大地で 何が起きているのか？	飯島 慈裕 (三重大学准教授)
第2回	2019年 8月9日(金)	海水減少と食物連鎖	綿貫 豊 (北海道大学教授)
		北極の気象・気候について わかっていること／いないこと	猪上 淳 (国立極地研究所准教授)
第3回	2019年 10月9日(水)	北極の海の科学	渡邊 英嗣 (海洋研究開発機構研究員)
		氷河・氷床	杉山 慎 (北海道大学教授)
第4回	2019年 12月3日(火)	北極圏の石油・ガス開発は なぜ必要なのか？	本村 眞澄 (元石油天然ガス・金属鉱物資源機構)
		北欧のエネルギー大国ノルウェーの石油開発 ～特にその北極域と周辺地域について	高橋 照之 (出光興産株式会社)
第5回	2020年 1月27日(月)	北極海航路とその利用	大塚 夏彦 (北海道大学教授)
		エネルギー輸送	泉 史郎 (株式会社商船三井)
第6回	2020年 3月27日(金)	気候変動と北極国際関係	大西 富士夫 (北海道大学准教授)
		「昔ながらの知恵」から学ぶ ～アラスカ先住民と自然環境の関わり	近藤 祉秋 (北海道大学助教)

■会場案内図



- ※当イベント会場の座席は、自由席です。
- ※当イベントで撮影した写真や映像は(主催)北極域研究共同推進拠点(J-ARC Net)及び(株)クルーズライフのホームページに掲載することがあります。
- ※講演会終了後、アンケートのご記入をお願い致します。このアンケートは(主催)北極域研究共同推進拠点(J-ARC Net)及び(株)クルーズライフの今後の参考資料として使用させていただきます。予めご了承ください。
- ※ゴミの持ち帰りにご協力をお願いいたします。

■交通手段

- 東京メトロ有楽町線「新富町駅」
5番出口から徒歩5分
- 東京メトロ日比谷線「八丁堀駅」
A3出口から徒歩5分
- 東京メトロ日比谷線「築地駅」
4番出口から徒歩5分
- JR京葉線、「八丁堀駅」
A3出口から徒歩5分

市民講座の参加申込方法は
最後のページをごらんください。

講師のご紹介 Introduction of the seminar lecturers ※順不同・敬称略



山内 恭 (やまのうち たかし)
南極・北極の気象や気候の研究を、地上観測、気球・航空機・船舶等からの観測や人工衛星によるリモートセンシングデータの解析により進めている。南極観測隊には1978年より5回参加し越冬隊長を務める。1990年代より北極海上空での航空機大気観測や初のオールジャパンでの北極研究プロジェクトを主導。



飯島 慈裕 (いじま よしひろ)
専門は気候学・自然地理学、寒冷圏陸域の学際共同研究、大気-陸面相互作用。シベリア、モンゴルなど北東ユーラシアの永久凍土環境の変化と気候変動、水循環変動との相互作用、それらと人間活動とのかわりに関する学際的な観測研究を専門としている。



綿貫 豊 (わたぬき ゆたか)
学生の頃より、南極・北極域、北海道やタスマニアの孤島で海鳥の行動・生態研究をしている。特にバイオロギング技術も使って気候変動と人間活動(特に海洋汚染)が海洋生態系へどういった影響を与えるか、海鳥の目を通して探ろうとしている。専門は、動物の行動生態、海洋生態、保全生物。



猪上 淳 (いのうえ じゅん)
極域の大気-海氷-海洋相互作用に着目した観測に基づく気候変動研究を推進。2017年～2019年の極域予測年には、世界気象機関極域予測プロジェクト運営委員として、両極の高層気象観測網の強化に貢献。2017年度日本気象学会賞受賞。2018年「みらい」北極航海首席研究者。



渡邊 英嗣 (わたなべ えいじ)
専門は極域海洋学。北極海における海氷・熱輸送・生態系の数十年スケール変動などをテーマとした研究を行っている。夏は北極グリーンランド、冬は南半球の南極かパタゴニアへ。また、毎年大学院生を連れてスイスの氷河で実習を行い、次世代の北極・南極研究者を育成している。



杉山 慎 (すぎやま じん)
氷河氷床の変動とそのメカニズムについて、現地観測を中心とした研究を行っている。夏は北極グリーンランド、冬は南半球の南極かパタゴニアへ。また、毎年大学院生を連れてスイスの氷河で実習を行い、次世代の北極・南極研究者を育成している。



本村 眞澄 (もとむら ますみ)
1977年3月、東京大学大学院理学系研究科地質学専門課程修士修了。同年4月、石油公団(当時)入団。2004年2月、(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構調査部主席研究員。博士(工学)。2019年3月退職。環日本海経済研究所共同研究員。[主な著書]『石油大国ロシアの復活』アジア経済研究所、2005年。現在出光興産資源部に勤務。



高橋 照之 (たかはし てるゆき)
北海道大学大学院理学研究科修士課程(地質学・鉱床学専攻)修了後、1981年に出光興産に入社。石油開発部門で国内外の石油・天然ガス資源の探鉱開発に従事、担当地域は日本海、中国、オセアニア、中東、北アフリカ、欧州など。海外駐在はノルウェー・オスロの12年ほか計17年。現在出光興産資源部に勤務。



大塚 夏彦 (おつか なつひこ)
1958年生まれ。北海道大学工学部土木工学科卒業後、東亜建設工業(株)、北日本港湾コンサルタント(株)勤務を経て、2016年より現職。港湾構造物の耐震設計、氷海工学の研究を経て、現在は北極域の持続的利用をテーマに北極航路などの研究を進めている。



泉 史郎 (いずみ しろう)
1975年生まれ。北海道大学大学院工学研究科卒業。2000年(株)商船三井に入社し、主に技術部にて新造船設計監理の業務に従事する。2016年より韓国にて建造されるヤマルプロジェクト向け砕氷LNG船の担当となり、北極海での砕氷性能試験に立ち会った。



大西 富士夫 (おおにし ふじお)
北海道大学北極域研究センター人文社会科学研究グループ長・准教授。専門は国際政治学。利益、規範、制度に着目して北極域をめぐる国際関係の展開を研究・分析している。自然科学・工学の研究者・ステークホルダーと協働して、課題解決型の研究プロジェクトの立ち上げにもかかわる。



近藤 祉秋 (こんどう しき)
北海道大学アイヌ・先住民研究センター助教。専攻は文化人類学、アラスカ先住民研究。早稲田大学大学院、アラスカ大学フェアバンクス校博士課程を経て、現職。おもな業績として、『犬からみた人類史』(共編著、勉誠出版、近刊予定)、『人と動物の人類学』(共編著、春風社、2012年)など。